様式４　　〈推進校→一宮市社協〉

2024 年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立丹陽中学校	学校 No.	５６

１．　福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、「心身ともに健やかで、思いやりがあり、たくましく生きる人間を育てる」を教育目標にさまざまな体験を通して「夢を育む教育活動・豊かな心を育てる教育活動」の充実を目指している。

福祉活動については、今年度も「障害者の方々と、共に生きる明るい社会を作るために、自分たちに何ができるのかを考え、実践できる生徒の育成」を目標に、活動への契機となる体験を通して介護や福祉に対する理解の深化、ボランティア精神の育成を図ろうと、校内・校外の諸活動に取り組んできた。

推進体制として、各学年に福祉担当教員を配置し、福祉実践教室、職場体験（ゲストティーチャーの分科会）などの学校行事の実施を中軸に、地域でのボランティア活動や生徒会による募金活動など、幅広く福祉活動を進めてきた。

２．　福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（１）社会福祉に対する関心を深め、意識を高める活動

①　各種施設でのボランティア活動（７、８月）

障がい者施設「あおぞら」、「コスモス」、高齢者施設「たんぽぽ加茂の里」、おもちゃ図書館「なかよし」で、ボランティア活動を体験した。障害者施設では、キャンドル作りや自転車の解体作業を行うことで、作業所の人たちと交流することができた。高齢者施設では、高齢者の方の話し相手をしたり、介助の手伝いをしたりして、福祉について考えることができた。また、おもちゃ図書館では来館した未就学児に絵本の読み聞かせをしたり、折り紙で飾り付け用の作品を作ったりした。

②　福祉実践教室（１０月）

１年生を対象に講座ごとに分かれて、実際に車椅子、手話、点字、要約筆記、視覚ガイドヘルプ、高齢者疑似体験、認知症理解、発達障害理解の講座を受講した。実際に障害のある人々との交流や、具体的な介助の仕方を学ぶ中で、障害のある方への理解を深めるとともに、「自分でも誰かの助けになれるかもしれない。」と気づくことができた。（図①）

（２）地域社会との連携を深めた活動

ゲストティーチャーに学ぶ会（１月）

地域の方を招いて、地域の歴史や仕事などの経験談を聞くことができた。ゲストティーチャーの先生方の熱意のこもったお話に、真剣に聞き入る姿が見られた。（図②）

（３）その他の活動

代表生徒が校区内の商業施設で赤い羽根共同募金への協力を呼びかけた。校区内で行うことで、地域の人の協力を得られた。また、生徒にとっても地域の方の温かい心に触れることとなり、よい経験になった。（図③）

図①

図②

図③

３．福祉教育の成果と今後の課題

福祉活動を通して、生徒たちが人の役に立てた喜びを感じたり、温かみのある行動を目の当たりにしたりすることができた。生徒の関心、意欲を高めながら、学校として今後も積極的に社会福祉活動に参加できる生徒を育てていきたい。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立浅井中学校	学校Ｎｏ.	57

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

重点努力目標を「利他共生」と設定し、高齢者や障害のある人に対して関心と理解を深め、ボランティア活動等に積極的に参加し、活動を進めた。

委員会やボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画し、実施を行う。

〇行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。

〇地域ボランティア等を通して、福祉に対する向上をはかる。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

〇通年

・道徳の授業で「いのち」や「人」をテーマに据え、生命の尊さや思いやりの心について学習を行った。道徳の授業を通して、継続的に取り組み、福祉の意識や人間の尊厳について考えた。

・各種ボランティア募集

〇４月「緑の募金」12月「赤い羽根共同募金」「手足の不自由な子供を育てる運動」３月「震災復興支援募金」

・各募金活動、支援活動を生徒会を中心に実施した。

〇５月、10月、１月

・小中学校連携あいさつ運動を実施した。あいさつする習慣を身につけ、地域や保護者とのよりよい関係づくりを目的に、中学生が小学校門に立ちあいさつ運動を行った。

〇５月

・１年生で福祉実践教室を実施した。生徒に興味ある講座を選択させ、事前に調べ学習を行うことで関心を高めた。当日はどの生徒も興味深く話を聞き、意欲的に体験に取り組めた。

募金活動の様子

あいさつ運動の様子

福祉実践教室の様子

３．福祉教育の成果と今後の課題

道徳教育でいのちや生き方について、多面的・多角的に考える学習を継続的に行うことにより、福祉教育に関する意識を高めることができた。

福祉施設や地域でのボランティア体験について、参加希望者は毎年たくさん申し込みがあるので、ボランティア活動に対する意識は高まっていると感じる。

今後も自分たちができることを考え、全校で取り組めるような実践を続けていきたい。また、地域の方々とともに、より充実した活動を行っていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

様式４　　＜推進校 → 一宮市社協＞

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立北方中学校	学校Ｎｏ.	５８

１　福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は，「『自主・責任』を常に意識し，実行に移すことのできる生徒の育成」を教育目標に掲げ，生徒の自主的な活動を重視した各種活動に努めている。また，体験活動を多く取り入れることで，校訓でもある『自主・責任』の具現化を目指している。社会福祉教育もこの一環として位置づけ，社会福祉への理解と関心を高め，福祉の心の育成を図るとともに実践力を育てることを目標とし，豊かな心の育成に取り組んでいる。

２　福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

【福祉実践教室の様子】

（１）社会福祉活動に対する関心を深め，意識を高める活動

ア　福祉実践教室（１年生）

事前に，総合的な学習の時間などで福祉に対する意識高揚を図った。当日は，点字・視覚障害者ガイドヘルプ・高齢者疑似体験の講習を受け，体験活動を行った。実際に体験することで，障害のある人たちの苦労を感じることができた。また，自分たちの環境を見直すことで，進んで福祉活動に関わっていこうとする気持ちを高めることができた。

イ　広報活動（全学年）

生徒の活動については，写真や感想を紹介したり，掲示物に展示したりした。また，学校ウェブサイトで，活動の様子を知らせた。

（２）地域社会との連携を図る活動

ア　夏休み福祉ボランティア体験（全学年[希望者]）

夏季休業中に老人福祉施設や障害者施設などを訪問し，一日体験学習をした。戸惑いや不安があったようだが，活動を続けるうちに，自分でも役に立つことができると感じられるようになった。活動を通して，楽しさや喜びを感じ，今まで抱えていた高齢者や障害のある人たちに対する理解を深めることができ，貴重な体験となった。

【地域ボランティア活動の様子】

イ　地域ボランティア活動（全学年[希望者]）

コロナ禍が明け，関係者の尽力により，地域行事がほぼ復活開催された。運営の手伝いや清掃活動など，地域行事におけるボランティア活動の機会が増えたことで，ボランティアに対する意識が高まり，多くの生徒が参加した。地域の方々にあいさつされたり，褒められたりすることにより，大人に認められ，地域に役立っていることを実感させることができた。

ウ　お年寄りを囲む会（３年生）

地域のお年寄りを学校に招き，給食をともにしながら，戦後の体験談や昔の遊び，北方町の生活様式，伝統文化などの話を聞かせていただいた。生徒たちは，多くの人たちに支えられて生活が成り立っていることを学び，自分たちに寄せられている地域からの期待も感じながら，郷土を愛する心を高めていくことができた。

【お年寄りを囲む会の様子】

（３）生徒の手による自発的な活動

ア　学校周辺にある通学路のゴミ拾い（環境委員会）

イ　赤い羽根共同募金活動（生徒会）

ウ　ゴミ０運動（環境委員会）　　エ　あいさつ運動（生徒会）

３　福祉教育の成果と今後の課題

様々な体験活動や道徳教育などを通して，福祉活動に対する関心が高まるとともに，命の大切さを感じ取ったり，思いやりの心が育ってきたりしている。今後も生徒の成長につなげていけるように継続して活動させたい。また，地域のボランティアにも積極的に参加させ，地域に貢献する喜びを味わわせたい。生徒に成就感を味わわせることにより，福祉に対する意識をさらに高めていくとともに，より多くの生徒が関わることができるように働きかけていきたい。

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大和中学校	学校Ｎｏ．	59

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は，「『笑顔・輝け・大中』のもと，心身ともに健康で，知・徳・体の調和のとれた思いやりのあるたくましい生徒の育成をめざす」ことを教育目標に掲げている。今年度も社会福祉実践校として，社会福祉に関する理解と関心を高め，「共に生きる」姿勢を育てることを目指し，福祉教育推進係や各学年・生徒会を中心に活動を進めている。

〇一宮聾学校や本校特別支援学級との交流を通して，障害のある人との心のふれあいを深め，理解推進を深める。

〇福祉実践教室を通して，障害のある人の日常生活について正しい認識を深め，共にたくましく生きようとする気持ちの高揚を図る。

〇福祉体験やボランティア体験活動を通して，思いやりの心と助け合う態度の育成を図る。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1)一宮聾学校や本校特別支援学級との交流

７月は聾学校，11月は本校において2回の交流会を実施した。ドッジボールや障害物リレーの競技を通してチームで作戦を立てたり，お互いに協力し合ったりして，理解を深めることができた。

(2)福祉実践教室

福祉についての理解と実践態度の育成を図り，「共に生きる」明るい社会をみんなでつくることをねらいとして，1月に実施した。事前に当日受講する講座の学習を進め，疑問に思ったことを講師の方々に質問できるようにして福祉実践教室に臨んだ。車いす・手話・点字・視覚障害者ガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症理解・発達障害理解の体験を講座別に行い，実践力を高めていくことができた。

(3)福祉体験活動・ボランティア体験活動

1年間を通じて，さまざまなボランティア活動を実施した。参加した生徒はみな貴重な体験ができ，相手を思いやる気持ちを育て，感謝される喜びを味わうことができた。

聾学校との交流会

福祉実践教室

ボランティア体験活動

３．福祉教育の成果と今後の課題

それぞれの活動は継続的なものとして定着してきているが、昨年度に比べ，より多くの生徒が積極的に福祉活動に参加するようになってきた。活動を通して，社会福祉に対する関心・理解が高まるとともに，人の役に立ちたいという主体的な気持ちで取り組む姿が多く見られた。今後，早めにボランティアの紹介をしていき，多くの生徒がボランティア活動に参加できるような環境を整えていきたい。また，地域の方とのふれあいを大切にして地域に広がる活動を展開するなどして，福祉への理解と意識を高めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲
してください。

様式４　　〈推進校 → 一宮市社協〉

2024年度　一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学　校　名	一宮市立今伊勢中学校	学校Ｎｏ.	60

１．福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

「いのちを大切にし、豊かな心をもつ、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、生徒会活動やボランティア活動を通して、礼節や思いやりの心を育て、人権意識の高揚を図るとともに、いじめや不登校生徒をつくらない学校をめざし、実践に取り組んだ。

２．福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1)夏季ボランティア体験

毎年、夏季休業中に、校区内の福祉施設でボランティア体験活動を行っている。ボランティア体験では、食事の介助や身の回りの世話、施設利用者とのレクリエーションなどを行った。この体験を通して、相手の立場に立って考えようとする気持ちが生まれたり、今後もボランティア活動に参加したいと思えたりするなど、福祉に関する考えを深めることができた。

(2)生徒会活動（いじめ追放宣言書づくり）

６月25日に生徒会からの呼びかけで、いじめ追放宣言書づくりが行われた。各クラスで、「教室をより安心できる場所にするためにはどうすればいいか？」を考え、クラスのいじめ追放宣言書を作成し、７月１日の生徒議会で、学校全体のいじめ追放宣言書を発表し、教室に掲示した。また、12月の人権週間に合わせて、12月10日の生徒集会で校長による人権講話を行い、生徒会からいじめ追放宣言書のふりかえりを行った。クラスだけでなく、学校全体でいじめを許さないという考えを示し、生徒一人ひとりがいじめをなくすために何が必要かを考えることができた。

いじめ追放宣言書

1 私たちは、いじめを絶対に許しません。
だから、困ったことがあったら相談し、困っている人を見つけたら優しく声を掛けます。
2 私たちは、いじめを絶対に許しません。
だから、互いの違いを認め合い、一人一人の個性を大切にします。
3 私たちは、いじめを絶対に許しません。
だから、人と平等に接し、相手が嫌な気持ちにならない行動を日々心掛けます。
4 私たちは、いじめを絶対に許しません。
だから、一日「ありがとう」を5回以上言います。
5 私たちは、いじめを絶対に許しません。
だから、自分の言動に責任をもちます。

令和6年7月1日　今伊勢中学校生徒議会

３．福祉教育の成果と今後の課題

本年度は、生徒会主催のあいさつ運動や学校運営協議会主催の今伊勢連区の３校合同あいさつ運動を行うことができた。また、地域の公民館主催のイベントのボランティアに参加する生徒も多くいた。これまで、感染症予防対策でできなかった行事が、少しずつできるようになり、生徒の「誰かのために役に立ちたい」という生徒の想いが、形にできる機会が増えてきた。来年度も生徒の積極性を大切に、生徒会活動やボランティア等で学んだことを、日々の生活に活かせるようにしていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。